Ｋａｚｕｔａｒｏ

唐突だが、ＷＯＯの中にはシェラライト３人衆と呼ばれる秘密集団がある。
なんか怪しげな感じだが、何のことはない、「シェラライト」という名の軽登山靴を買った者同士というだけのことなのだ。
そのメンバーはＨさん・軍曹さん・そして私(Kazutaro)の３人。
Ｈさんは関東方面の山を制覇していると言うし（ OH!WOO!! ９月号参照）、今度はアメリカにも遠征だ。
軍曹さんは九州の高千穂峰に登り、クマソを退治した（同６月号参照）とも、天孫降臨したとも聞く。
こりゃぁ私だけ遅れを取ってしまったわい！くやしー！
ということで私も山登りをする事にした‥‥‥‥。

☆　目的地は

問題：「写真を撮る」「山に登る」目的の旅行。季節は１０月初旬。日程は３日。
秋だから紅葉が撮りたいけど、この時期では東北地方まで行かないと。
しかし東北は遠すぎる。帰ってからの疲れを考えると車も使いにくい。
結果：緯度が上げられないなら、高度をあげれば良い。つまり高いところへ行けば良い。近場で列車で行けるところ。う～ん、金はかかりそうだけど、北アルプスが最適だね。ということで信州から北陸へ抜ける立山黒部アルペンルートに決定。

ということで立山紀行の始まりはじまりぃ～

☆　いざ出発。しかし雨ダス。

大阪駅から中央本線を通る夜行列車に乗り、信州からアルペンルートへ入り、明朝には信濃大町、７時には黒部ダム、のつもりだった。が、出発の夜はあいにく雨だった。

家で天気予報を何度聞いても快方に向かうようなことは言ってくれない。（ちなみに立山山岳の気象情報は０７６４―３１―４０００で聞ける。）

一度は出発を諦めて、ビールを飲んで寝かけたが、勤め先には明日の有休を届けてしまったし、明日一日ブラブラ過ごすのもシャクだ。

乗る予定だった「ちくま」は、もう出発してしまったが、北陸方面に向かう「きたぐに」にはまだ間に合う。よし！行こうではないか。

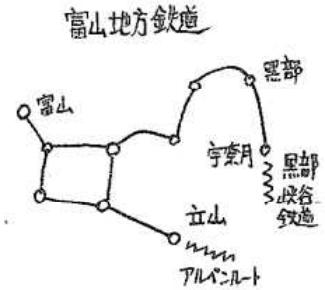
☆　黒部駅だよ

時計の電子音が５時に鳴った。きたぐにの車窓から見える景色はまだ暗い。雨がかなり降ったのか、線路ぎわの石が部分的に光って見える。

５時１５分、黒部駅到着。降りたのは私とあとひとり。雨に濡れながら跨線橋へ向かい、駅舎へと歩く。

駅員に「富山地方鉄道の駅はどこですか」と聞いたら、「遠いよ２０分ほどかかる」というような返答だけで、どこか言ってくれなかった。観光案内図を見ると、１㎞あまり南に富山地鉄の駅があるようなので、歩くことにした。

☆　今日の予定



立山に行くのに「黒部」駅で降りた、ことに疑問をいだかれた方も多いと思う。アルペンルートに行くためには富山で降りて富山地鉄の「立山」駅に向かわなくてはならないからだ。

実は今日は立山には登らない。雨が降っているのに行ってもしょうがないからだ。よって本日はこれから黒部峡谷鉄道に行こうと思う。ご存知の通り、黒部峡谷鉄道は関西電力が発電所建設のために作った鉄道であり、その路線は急流黒部川のＶ字谷を縫うようにして敷設されている。そしてトロッコ列車の走る鉄道として、鉄道ファンのみならず一般の旅行者にもよく知られている。鉄道ファンであり旅行好きの私が今まで行っていないことが、我ながら不思議なくらいだ。

さて話を黒部駅に戻す。まだ明けやらぬ暗い道を歩くこと１５分、だんだん町並みが賑やかになってきたら地鉄の駅があった。ＪＲの駅前より賑やかな印象だ。駅に入るとちょうど宇奈月行き始発列車の発車時刻が迫っていた。さい先の良いスタート！

☆　トロッコ列車だよ

終点・宇奈月は温泉町として知られている。北野タケシだったかが「うなづきうなづき」などと歌っていた頃にはさぞかし賑わったことだろう、などと勝手に想像する。ここで温泉に浸かっている暇はなく、すぐさま黒部峡谷鉄道の駅へ向かう。

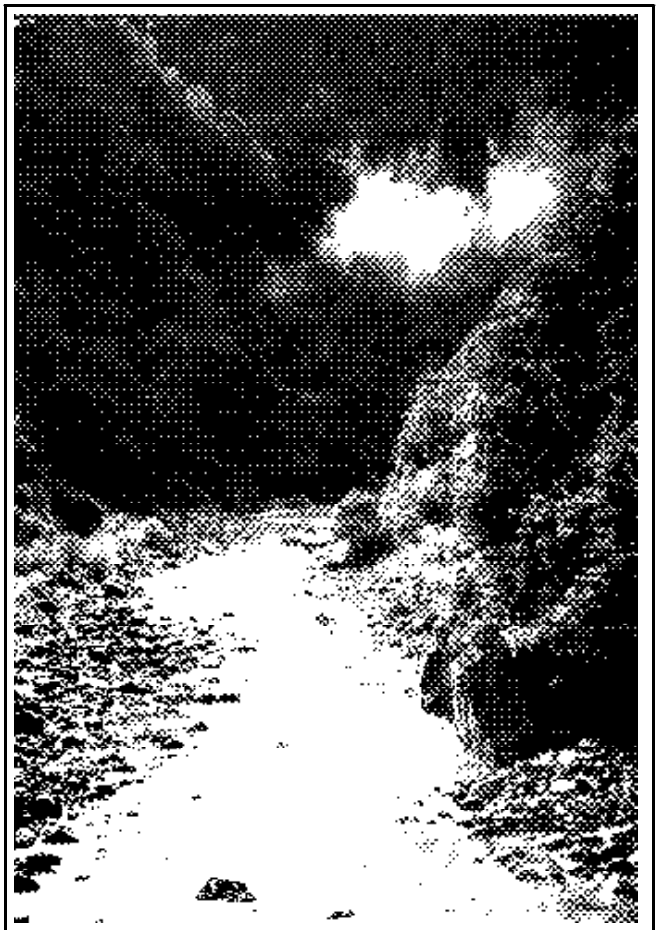
黒部峡谷鉄道はトロッコ列車で有名だが、そのトロッコも普通車・特別車・リラックス車・パノラマ車と４種に分かれていて、それぞれ料金が違う。普通車はまさにトロッコそのもので、あるのは長椅子と屋根だけである。まさに箱に乗せてもらっているという感じだ。特別車になると壁と窓ガラスが付き、リラックス車になると、座席に背もたれが付き、パノラマ車になると屋根が窓ガラスとなる。お値段は普通車を基準に＋０円，＋３６０円，＋５１０円，＋６１０円だ。しかしまぁ、野趣あふれるっつうか、トロッコらしさを味わうならやっぱり普通車ですな。

トロッコ列車

さて終点欅平（けやきだいら）までの切符を買ってまわりを見渡してみると、さすがにまだ観光客は少ない。なんせまだ７時すぎやからね。そのかわり関電の職員らしき作業着を来たおっちゃんがいっぱいいる。この人達は、観光客とは別に特別列車で職場へ向かうのだ。

さて７時３３分。始発列車に乗り込む。ここ宇奈月から欅平まで、時間にして８０分。気になるお値段は１３００円！しかし値段だけの所は走ってまっせ。遊園地でジェットコースターに乗るよりよっぽど楽しいと思うぞ。乗り込むのは車両のいちばん後ろだ。なぜかというと長椅子の後ろに気兼ねなくリュックが置けて、しかもそれが背もたれになるからだ。８０分間、背もたれ無しはつらいぞ～。

ダムや流水管や川の急流やトンネルを眺めつつ、列車は進んで行く。途中に温泉があったりする。路線と平行してコンクリートで作られた人の背ほどもない小さなシェルターがある。これは鉄道が閉鎖する冬季に、関電の職員が奥地のダムや作業所に行くのに用いられているそうだ。



黒部峡谷　**トロッコ列車から**

雨はいつのまにか止み、晴れ間まで見えてきた。Ｖ字谷の峡谷の底には、黒部川が流れており、水面が日を反射して眩しい。

☆　欅平だよ

欅平で降りたときには、天気はすっかり快晴となった。乗りつぶすだけのつもりだったが、ここまできたからには、とリュックを持って歩きだす。

山好きはここから水平歩道という名の山道を通って、黒部ダムまで縦走するそうだが（立松和平も歩いているのを ﾆｭｰｽ ｽﾃｰｼｮﾝで見た）、私にはとてもそんな気概はない。

あるいて２０分ほどの

名剣温泉へ行き、でんをついて帰った来た。すぐさま発車。
　帰りはすれ違う列車すれ違う列車、すべて団体様で大賑わい。トロッコに鈴なりに乗っていて、落ちやせんかと心配してしまう。

　宇奈月に戻り、黒部川電気記念館を見学して、再び富山地鉄に乗り込んだ。
ここから立山アルペンルートの玄関・立山駅に向かう。

☆　一気に高原だよ

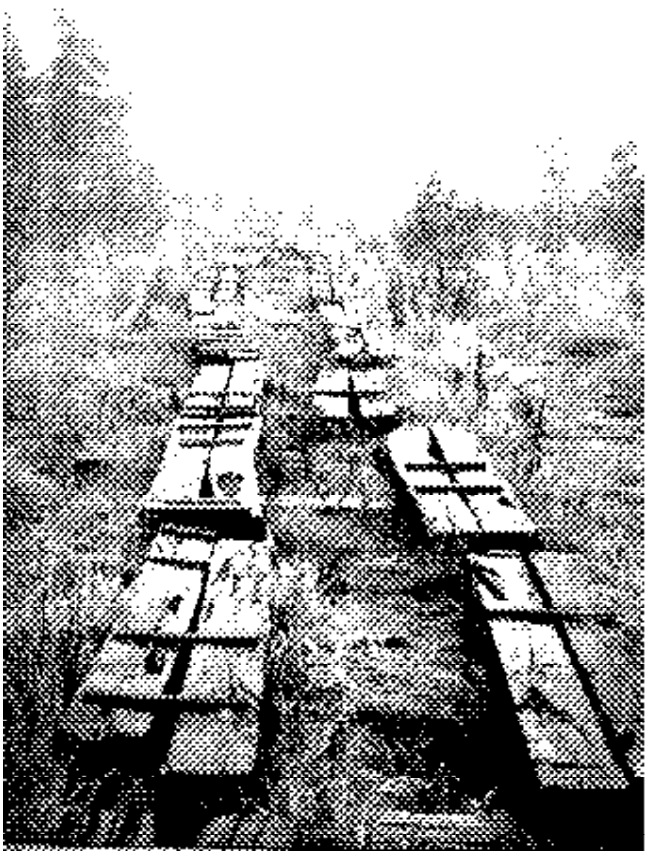
　列車を乗り継ぎ、立山駅に着く。時刻は２時半になっている。天気は、また雨だ。立山駅からは「立山黒部アルペンルート」という日本でも有数の観光ルートだ。ケーブルカーに乗り換える。どこでもそうだが、ケーブルカーは一気に高度を上げて行くので、周りの樹木の色がどんどんと変化する。そしてそれは気温もどんどんと下がっていることを意味するのだ。
　ケーブルカーを降りるとそこは「美女平」駅。その昔、立山が女人禁制だった頃、強引に登ってきちゃった尼さんが杉の大木に変えられた、という伝説からついた名前だ。確かにケーブルの駅を出るとすぐの所に巨杉が２本立っている。
　美女平駅から先は高原バスだ。バスは徐々に高度をあげて行き、ブナとナナカマドの紅黄葉樹林を通り過ぎて行く。雨のためか、黄葉も紅葉もしっとりと落ち着いた色を見せている。こういう何でもないようで安心感がある写真が取れれば、と思うが、腕がついて行かないんだよなぁ。

☆　国民宿舎だよ

　弥陀ケ原でバスを降りた。美女平から電話をいれておいた国民宿舎に入る。相部屋ということで１６帖の大部屋に通される。広い部屋の隅っこに陣取り、相客を待つ。しかし、いつまで経っても相客は現れず、けっきょく一人寂しく大部屋を持て余す結果となる。
　国民宿舎らしい、どうということのない夕食にビールを１本つける。リビングで天気予報だけ見てすぐ寝る。

　次の朝、５時に起きる。着替えてカメラとカイロを持って飛び出す。近くに立山カルデラの展望台があるのだ。んが、しかし。そとは霧雨であった。視界１０ｍ。こりゃいかんので、引き返してまた寝る。

☆　弥陀ケ原は雨降る中



弥陀ケ原

弥陀ケ原は国民宿舎の目の前にある、標高２０００ｍの高層湿原である。

霧雨で視界も悪く、幻想的な写真が取れるかとも思って歩きだしたが、なかなかどうして足場は悪く、荷物は重く、傘とカメラで両手はふさがれ、木道を塞ぐ草木の露は体を濡らし、実に不自由な撮影行となった。１時間あまりうろついて疲れてしまった。

バス停に戻り、バスを待つ。撮影を終えると皮肉なもので雲間から陽が射したりする。

☆　一気に室堂

弥陀ケ原からのバスも高度をぐんぐんと上げていく。
バスに乗ってすぐに黄紅葉の林を抜ける。「あぁここで降りたいなぁ」などと思っているうちにも高度は上がり、天狗平を越えるあたりでは木も無くなり（森林限界か？）、寒々とした光景が広がる。そして終点・室堂に近づくと雪景色となった。

さてこの高原バス、きわめてお高い。昨日乗った美女平から室堂平まで１５㎞で１６３０円である。でも、それにはわけがある。このあたりは超の付く豪雪地帯として知られ、春の除雪時には掘って掘って掘りまくり、２０ｍもの雪の壁が両側にできるというのだ。しかも営業できるのは５月から１１月までの間だけ。高いのも仕方ないというものか。

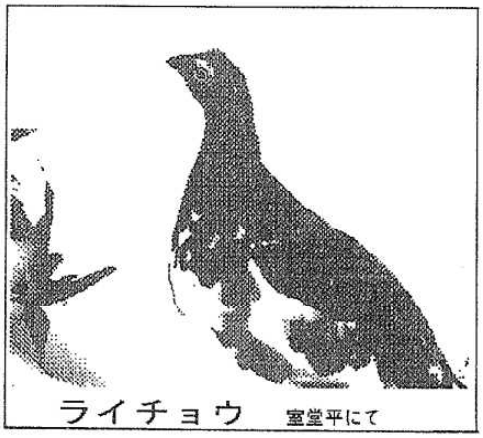
さて室堂平駅は、ちょっとした私鉄のターミナルほどの大きさがあって、中にホテルから郵便局の出張所から百貨店のようなお土産屋まである。外の天気が悪いためか、お昼時のせいか、やたら混んでいる。団体様は大変だ。みんなで外へ出てとりあえずって感じで雪をつかんですぐ中へ入る。ひとりのおばちゃんが、踏まれて融けた雪を見て一言「びちょびちょ美女平やねぇ」。すごいセンスだ。う～ん恐れ入りました。

さてこの室堂平、シーズン中は普通、数カ月前に予約しないと宿が取れないんだそうだ。私は、方々の山荘に電話して、室堂山荘という山小屋に食堂に寝るという条件で泊めてもらうこととなった。宿をキープしたことで、ひと安心。

☆　みくりが池だよ

室堂平から出てすぐに有名なカルデラ湖「みくりが池」がある。
写真を取りながら一周約１時間。途中にライチョウが出てきて観光客のカメラが集まる。

みくりが池の北にはみどりが池がある。
こちらはマイナーだが、立山を背景に写真映えする池だ。


ライチョウ　室堂平にて

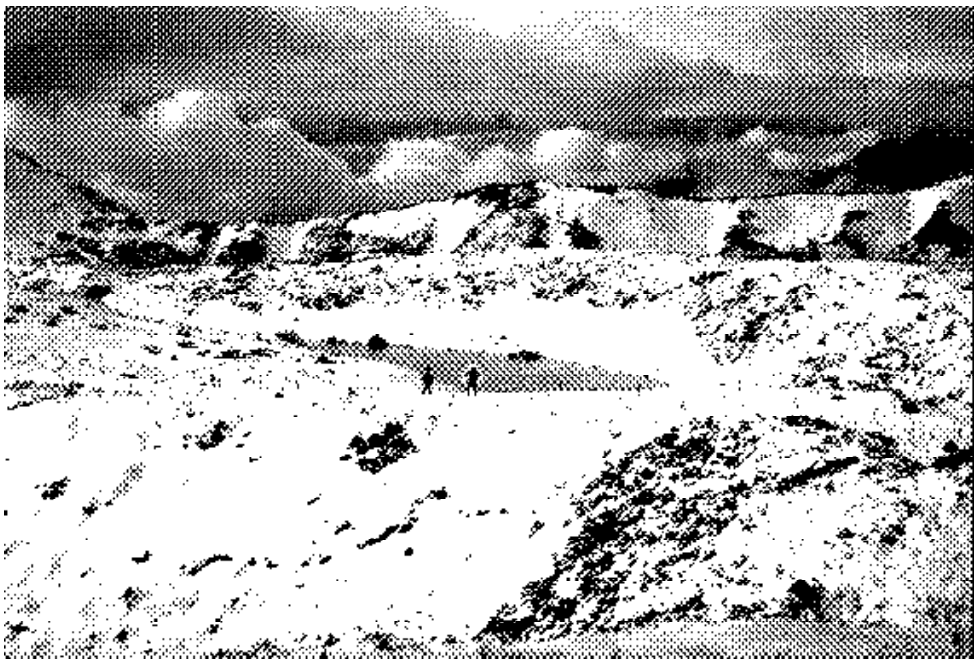
☆　山荘にて

室堂山荘に入り、宿泊料５１００円（夕食付き・食堂泊のため1000円引き）を払う。濡れた靴下をストーブの周りで乾かし、また撮影に出かけた。

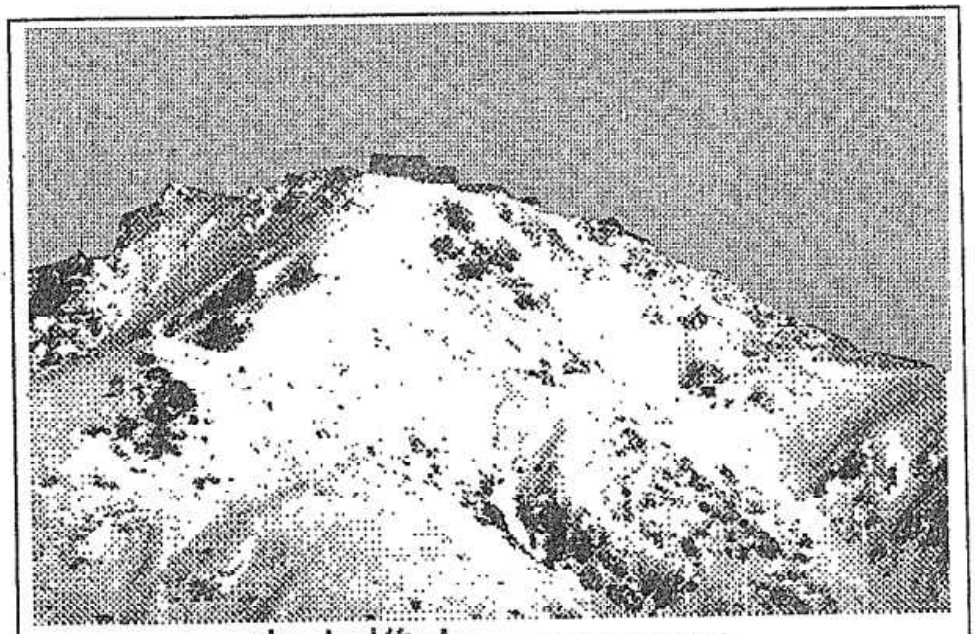
帰ってくると、食堂は夕食の支度のため出入り禁止となっていて、行き場がない。同じように手持ち無沙汰の人たちと廊下のソファでうたた寝をした。

目を覚ますとあたりが騒がしい。何事かと外を見ると、なんと晴れているのだ。今まで雲と雪の白一色が、空の青と 雪の白 そして夕照えした雄山のオレンジと、急にカラフルな世界となっていたのだ。

靴を履くのも もどかしく飛び出して、写真を取りまくった。今まで白一色のコントラストのない風景が、急に生き生きとしたものに見えてくるから不思議だ。



室堂平・みどりが池



立山雄山　室堂平から撮影

☆　月明かりの下

室堂山荘の夕食はＧＯＯＤだ。でっかいトンカツをメインとして、他になんやかやが付く。ビールのあてと御飯のおかずとして十分の量だった。やっぱ山登りする人はみんなこれくらい喰うんやろうな。

夕焼けを見ながらの食事が終わると、風呂に入る。

その後、カメラを持って外へ出る。この日は満月、十分な月明かりの上に、雪による照り返しで、異常ともいえる光景だ。上からの一点光源でなく、ほのぼのとした全体的な明るさというのは、あまり経験したことが無いためかも知れない。持っていた懐中電灯はけっきょく使わず仕舞い。

カメラを三脚にセットして、絞りを開放にして、約１分間シャッターを開く。この露出はあてずっぽうなものだったが、まぁまぁ写った。プリントしてみると、昼間撮ったように明るく、それでいて、どこにも影の無い不思議な写真が出来あがった。そして天の星は線を引いて写っているのだ。

雄山とみどりが池　　月明かりで撮影

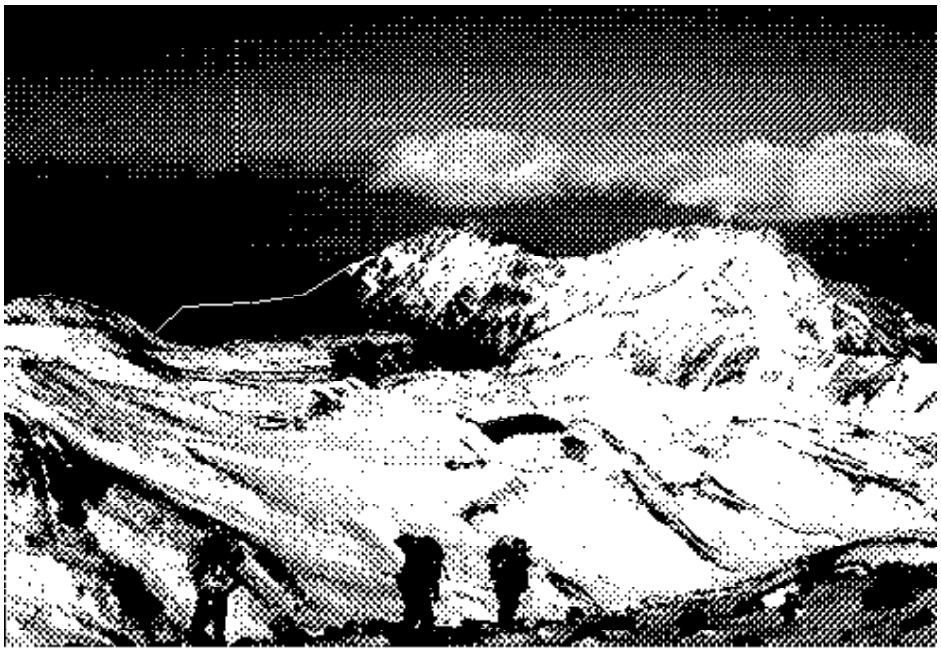
おそらく、この夜はかなり寒かったはずだが、そんなことも忘れるかのような楽しい散歩だった。誰もいない展望台で大声で歌いたくなるような衝動に駆られた。春先、なぜか心弾むような空気に触れることがあるが、この夜は、ほの明るさが、それと同種の野生の興奮を興させたのかも知れない。

☆　朝のドキドキ

　早朝、目が覚めると、隣に寝ていた女の子の顔が間近にあって、ちょっとドキドキした。年の頃なら１９・２０。なかなかかわいい子だったぞ。あちらさんも起きてた気配だったが、おいら純情だから何もしなかったぞ。
う～ん、２７のおっさんの書くこととは思えんなぁ。
　このまま寝ているのも恥ずかしいので、おぢさんはまたもカメラを持って早朝写真を撮りに行きました。開けた西の彼方に月が沈んで行きました。終わり。

☆　ついに登山だ わっはっは

　カロリーメイトを朝飯として、登山開始。一の越（いちのこし）までゆっくり写真を取りながら歩く。筋状の雲が青い空に流れる。それが写真的なので、さいさいシャッターを切る。日陰の雪は青く見える。チンダル現象というやつだろうか。
　ゆったりした斜面を歩くこと１時間。一の越山荘に着く。
　ここでで小休止。私を含めて一般ハイカーはここまでが限界だろう。しかし、ここで引き返してはシェラライト３人衆に笑われてしまう。天気もいい。標高は２７０５ｍの高地だが、さほど息は苦しくない。登山者も多いから道に迷う心配もない。よし、決めた！立山連峰最高峰・雄山へ登るぞ！。



室堂平（みくりが池）　雄山から

☆　立山頂上へ

一の越しから雄山山頂まで、地図上では５００ｍ。しかし標高差は３００ｍ。

さすがに一の越しからは、急坂となり、登山者も減る。周りは山装備をしたおっさんばっかりとなる。昨日の夕方に少し雪が溶け、夜間の冷え込みで凍ったのか、表面がアイスバーンになっているので恐ろしい。登山道は、早朝に登った人たちがならしてくれているので、道を踏み外さなければ大丈夫だが。

アイゼン（足の裏に付ける滑り止め）もピッケル（杖）もない私には、カメラバックや三脚が詰まった重い荷物が武器だ。重い荷物を背負うことによって摩擦力を高めようというわけ。ほんまに効果あるんかどうか分からんが、そうでも思わないと登ってられませんがな。ちょっと撮影のために道から外れリュックを下ろしたとたん、凍った平面で滑って尻餅ついてスルスルスルと１ｍほど滑って行ったのにはビビってしまったなぁ。

登りながら、帰りのことが真剣に心配になってきたぞ。なんせ帰りは荷物が加速装置になるんやからなぁ。

立山雄山登山

☆　ついに３０００ｍだ わっはっは

歩くこと１時間。立山雄山神社が間近に見えてゴールイン。標高３００３ｍ。寒いせいか不思議と汗をかいていない。

はじめて３０００ｍの高地に立ったというのに、正直、あまり感動というものがない。自分の足で登ったのは、たかだか５００ｍくらいだからだろうか。あとから考えると、なにか頭の中が真っ白になっていたような気がする。

頂上は３６０度の展望が広がる。白馬岳をはじめ、信州の有名な峰々が連なる。北には剣岳。そして西の眼下には、昨日歩き回った みくりが池や みどりが池、室堂のターミナルや室堂山荘が小さく見える。

立山雄山登山

☆　帰り道

さて帰りは慎重に降りなくては行けない。三脚を伸ばしピッケル代わりに使う。ゆっくりとゆっくりと道を選びながら降りる。一の越まで降りるのに、５０分もかかってしまった。

一の越からは余裕。滑るようにして降りていく。一度調子に乗りすぎてスッテンコロリンとやってしまったが、仰ぎ見た青い空が深く美しく、しばらくそのまま仰向けになっていた。

室堂平まで戻って、もう一度、みくりが池を一周。あとはアルペンルートに乗っかって大量の観光客とともに長野県・大町に降りた。大阪に帰ったのは夜９時。

立山雄山山頂

立山雄山山頂

追記

執筆時は、写真をモノクログラフィックアプリで加工して貼り付けるという手法を採っていました。ここからはカラーの原版を貼り付けておきます。

立山雄山神社